



# 明化の教育

11月号(第483号)  
令和2年10月30日  
文京区立明化小学校  
校長 熊倉 勝

## 子どもの財産

副校長 松下 由紀子

朝晩の冷え込みに秋の深まりを感じる季節となりました。

今、明化小学校では、ポッチャやラダーゲッター等の明化スポーツフェスティバルで行う種目の練習や、音楽会に向け様々な楽器が奏でる音楽など「スポーツの秋」「芸術の秋」を感じさせる活動が盛んです。



明化スポーツフェスティバルは、日常的にスポーツに親しむ気持ちを育むことをめざし、本番に向け継続して取り組んでいます。一人ひとりが上手にできるよう、自己の記録に積極的に挑戦していますし、コロナ禍で集団での競技はできないものの、授業を含め休み時間でも、友達を励ましたり誰かがねらい通りに当てればみんなで喜んだり、みんなでスポーツの楽しさを味わう様子が一日の中で何度も見られます。体育は苦手としている子が休み時間にも自然と取り組んでいる姿が見られる中で、誰もが自分に合う好きなスポーツがあること、目標に向け何度も取り組む楽しさ、様々なスポーツに対する興味が高まっている様子が分かります。

また、11月は音楽会があります。スポーツフェスティバルと並行して、10月から子供たちは準備を始めていました。職員室には1年生の鍵盤ハーモニカの音がよく響きますが、短いフレーズを練習していたものがいつの間にか曲となって聞こえ、さらに低音パートへとより深みのある音楽へ向けて進んでいる様子が伝わります。これからの他の楽器も合わせた演奏が今から大変楽しみです。高学年もきれいな歌声を響かせながら、自然と身体が揺れて歌の世界に集中している姿に、聞くだけでなく歌う喜びが伝わってくるようです。発表に向け、子供たちは一生懸命練習に取り組んでいます。当日のお子様の頑張りを早く見ていただきたいと思います。



それ以外でも、図工の作品を展示し、子供たちがお互いの成果をみる機会を設けています。違う学年の作品にも関心をもち、個々に違う味わいを楽しみながら展示したのを見て回っています。高学年の作品を見て、低学年の子は学年が上がれば自分たちも作れるのかなと今から期待を高めています。学校への来客から「すごいですね。」とお褒めの言葉をたくさんいただき、保護者の皆様にも密にならない程度で、学校へ来ていただけるよう新しい試みとして参観を始めてみました。

90年以上も長きにわたり大切に親しまれた前校舎は、「出来得る限り、隅々で、遊び、工夫し、知ることが可能に」という願いをもって建設されていたそうです。明化の子供たちは、どんな活動にも楽しみながら真摯に取り組んでいます。こうした姿勢と様々な活動を通して感性を豊かにする体験の積み重ねが、今はもちろん、子供の将来につながる大きな財産になっていくと考えます。コロナ禍ではありますが、今後も活動の機会を日々模索し、挑戦しながら、保護者・地域の皆様とともに子供たちのより良い成長に向けて教育活動を行っていきたいと思います。